



行田で採れたものを

方々の元気な掛け声とお客さん

われる会場からは、

農家の

曜日の朝、

行田軽トラ朝市が

楽しそうな話し声が聞こえて



地産地消のメリット

1 鮮 度

鮮度が命の農産物を一番いい状態で食べるに は、採れたてが一番。その採れたての味に最 も近づけるのはその土地で食べることです。

2 安心・安全

産地や生産者の顔が分かることは一番の安心 となります。

3 旬を知る

その季節にその場所でできるもの、それがす なわち旬のものです。地産地消では農作物本 来の旬を自然に感じることができます。

4 工 コ

地産地消は物の移動距離が短いため、環境に やさしくエコなのです。

確立。 今では毎回足 アンを増やし、 だ小規模です のスタイルを 田軽トラ朝市 第に現在の行 催となり、 からは定期開 を運ぶ方も 平 成 23 着実にフ まだま 次

るとあって、 できるのが行田軽トラ朝市です。 ねたり、 生産者から直接買い物が 接お客さまに届 買い手と売り手が直接交流 試食をしたりするな 季節のおすすめを け でき

最近は、

スーパーマーケット

た。 な 立ち上がり、 次第に広まりつつあります。 めて育てた自慢の農産物を、 T 時 ブ 巿 が 強い思い 客さまにお届けしたい」とい 店になるという気軽さから、 行田軽トラ朝市は「真心を込 軽 ら トラックの荷台がそのま という形を採用したので も ムとなっていた 初 から、 めて開催され 平成22年に不定期 農家の方々が 軽 まし 直接

た旬のものを、 買うことができるようになりま に行けば多種多様 た。 つでも、 方で、 その土地で消費 その土地で採 ر ق

鮮でおいしい野菜だよ」「今月は

!がおすすめですか」

毎月第3

どりの野菜や果物、

軽トラックの荷台には

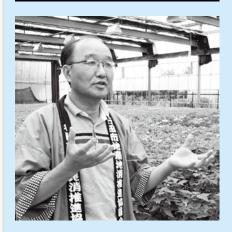
色

産物がずらり。

「採れたての新 花など旬の

る「地産地消」という考えも

生産者にインタビュー



山本 和良さん(埼玉)

(行田軽トラ朝市実行委員長)

23歳のころから花の栽培に携わる 園芸のプロ。平成25年度から実行委 員長を務める。

「行田の人たちに、行田の土と水で育った野菜を食べてほしい、花を 見てほしい」それが軽トラ朝市を開催したきっかけでした。販路を増や し、皆さんの手に取ってもらえる機会を増やすことは、地産地消の促進 にもつながります。また、野菜を畑で収穫してから店に並ぶまでの時間 が短いので、自信を持って「新鮮でおいしい商品」を提供できます。

行田軽トラ朝市の魅力は、何といっても生産者とお客さんが直接話せ ること。私たち生産者は、丹精込めて作った農産物についてPRしたり、 お客さんから質問されたりすることが本当にうれしいです。調理の仕方 や選び方はもちろん「トマトはどうやってできるの」などの簡単な質問で も構いません。買いに来なくても、気軽に話しに来てほしいと思います。

また、スーパーマーケットのように一年中同じ野菜が買えるわけでは ありませんが、春はイチゴ、夏はナスやキュウリなど、旬の農産物が並 ぶので、季節の移り変わりを楽しむこともできますね。時には農産物以 外にも、おこわやジャムなどの二次加工品が販売されることもあるので、 ちょっとしたサプライズ感も味わえるんですよ。

「日曜日は少し早起きして行田軽トラ朝市に出掛け、新鮮な野菜を家 で味わったり、きれいな花を眺めたりして、その日一日を心身ともに健 康に過ごす」行田軽トラ朝市を通して市民の皆さんに行田の農業につい て関心を持ってもらうとともに、そんな楽しみ方を提供できたらうれしいで すね。